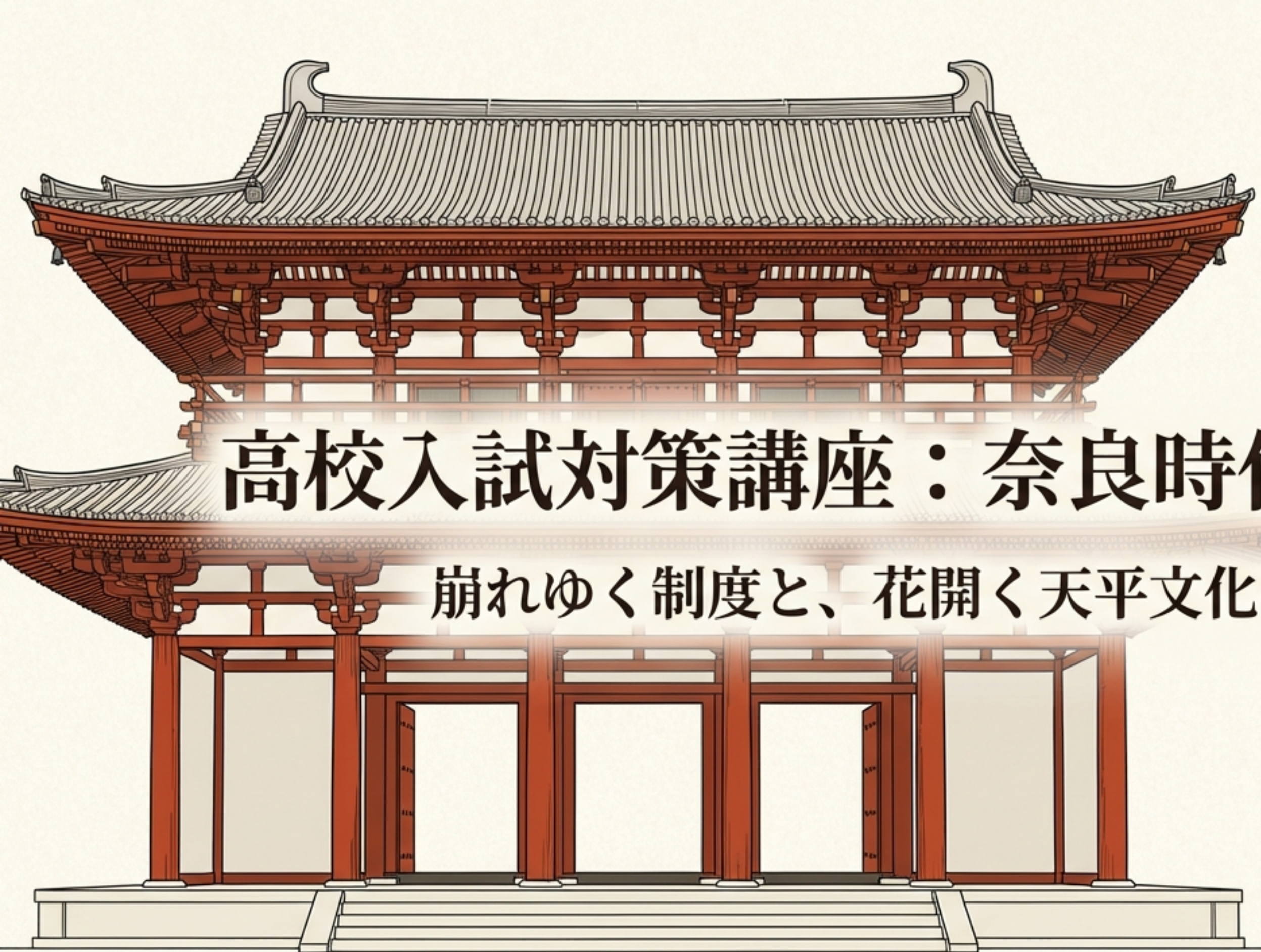




高校入試対策講座：奈良時代マスター

崩れゆく制度と、花開く天平文化の物語

奈良時代の幕開け：壮大な都と「律令国家」の理想（710-794）

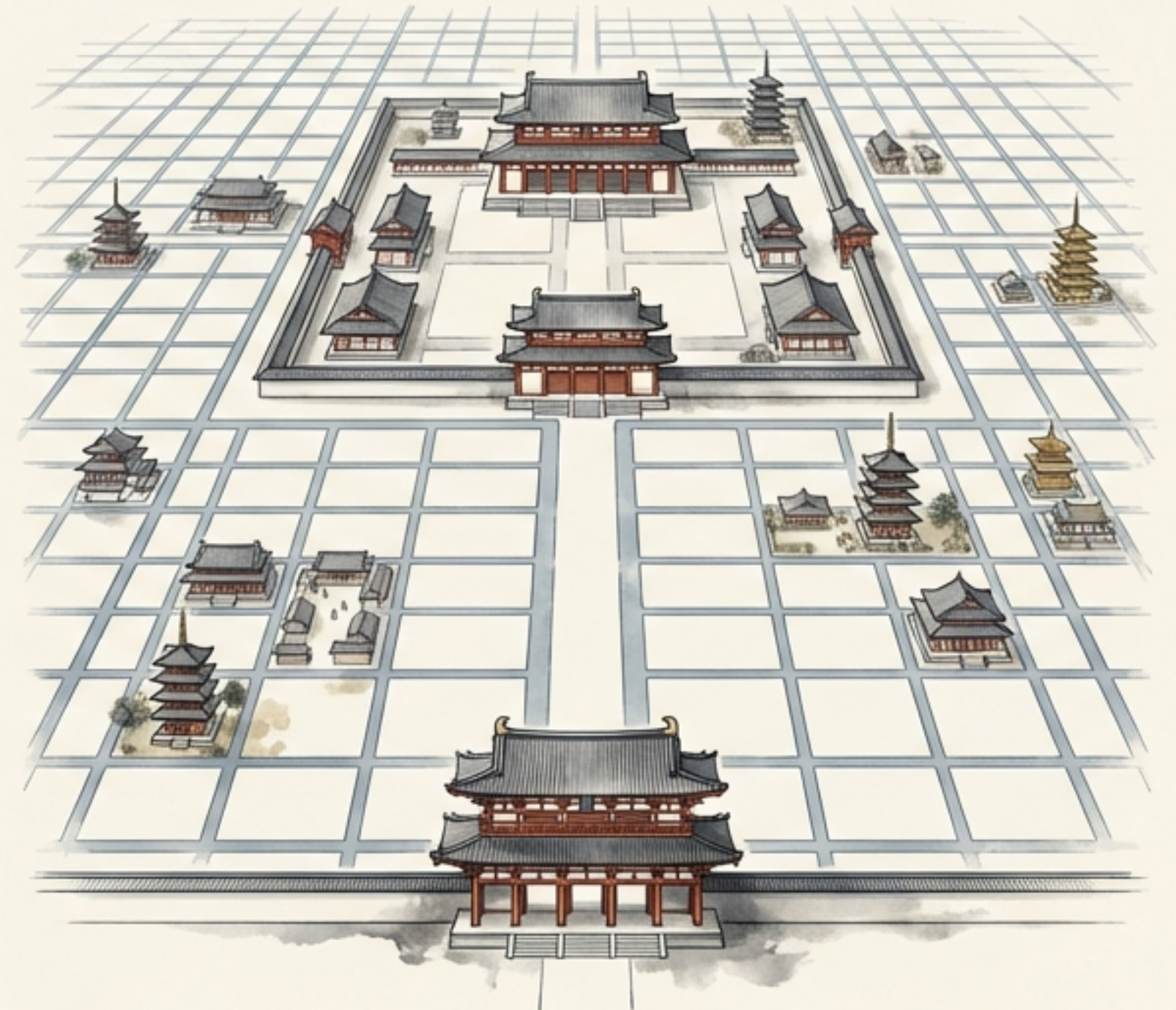
710年、元明天皇（げんめいてんのう）が藤原京から唐の都・長安にならった平城京（へいじょうきょう）へ都を移し、奈良時代が始まる。

この時代の理想は「律令国家」。天皇を中心に、法律（律令）に基づいてすべてを運営する中央集権国家を目指した。

国家の基本原則は公地公民（こうちこうみん）。すべての土地と人民は国家（天皇）のものである、という考え方。

平城京（Heijo-kyo）：
710年に遷都された奈良時代の都。

公地公民（Kochi Komin）：
土地と人民は公（国家）のものであるとする律令国家の基本原則。



律令国家の危機：なぜ公地公民の原則は崩れたのか？



重い税負担 (Heavy Tax Burden)

農民には税として租・庸・調（そ・よう・ちょう）が課された。



農民の逃亡 (Peasant Flight)

重税に耐えきれず、与えられた口分田（くぶんでん）を捨てて逃げ出す農民が続出。



国家財政の悪化 (Deterioration of State Finances)

土地は荒れ、国の税収が激減。さらに土地不足も深刻化し、公地公民の制度が根幹から揺らぎ始めた。

起死回生の一手：聖武天皇、土地の私有を認める

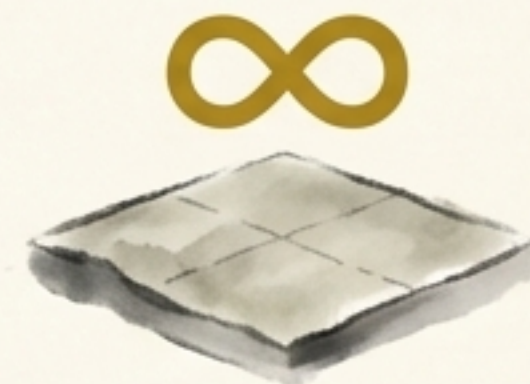
土地不足と税収減に直面した聖武天皇（しょうむてんのう）は、土地の開墾を促すため、新たな法律を定めた。



723年：三世一身法（さんぜいっしんほう）

内容：新しく開墾した土地を、本人から三世代（子・孫）まで私有することを認める。

結果：期限が来ると土地が没収されるため、効果は限定的だった。



743年：墾田永年私財法（こんでんえいねんしざいほう）

内容：新しく開墾した土地を、**永久**に私有することを認める。

「入試のポイント！」

三世一身法と**墾田永年私財法**はセットで覚えよう！年号と内容の違いが問われる最重要項目です。

新たな時代の幕開け：荘園の登場と公地公民の崩壊

墾田永年私財法の結果、資金力のある貴族や寺社は、人を雇って大規模な土地開墾を進めた。

こうして生まれた私有地は**荘園（しょうえん）**と呼ばれる。

荘園の拡大は、国家が土地と人民を直接支配する**公地公民の原則が完全に崩壊した**ことを意味した。

この荘園制度は、のちの武士の世の中まで続く日本の社会の基礎となる。



相次ぐ災いと聖武天皇の祈り：仏教の力で国を守る

この時代は、農民の苦しい生活に加え、
ききんや疫病（えきびょう）などの天災
も多発していた。

社会不安を取り除くため、聖武天皇は仏
教の力で国を鎮め、守ろうと考えた（**鎮
護国家思想**）。

主な政策：

都（平城京）に**東大寺**（とうだいじ）と
大仏（盧舎那仏）を建立。

全国（各国）に**国分寺**（こくぶんじ）と
国分尼寺（こくぶんにじ）を建立させた。



仏教の力を支えたキーパーソンたち



行基（ぎょうき）：民衆のヒーロー

民衆のために橋や用水路をつくる社会事業を行いながら、仏教を広めた僧。

朝廷からは当初弾圧されたが、のちにその人気と影響力から聖武天皇に協力し、大仏造立の中心人物となった。



鑑真（がんじん）：戒律を伝えた渡来僧

正式な仏教のルール（戒律）を日本に伝えるため、幾度もの遭難と失明を乗り越えて唐から来日。

奈良に**唐招提寺（とうしょうだいじ）**を建て、日本の仏教の発展に大きく貢献した。

強大化する仏教勢力：道鏡の登場と政治の混乱

国家の手厚い保護を受けた結果、**寺社の力は強大**になり、多くの荘園を持つなど経済的にも豊かになった。

やがて、僧侶が政治にまで口を出すようになる。その象徴が、僧侶**道鏡（どうきょう）**である。彼は天皇の寵愛を受け、政治の実権を握ろうとした。

「入試のポイント！」

道鏡（どうきょう）という名前を見たら、
「僧侶の政治介入」と結びつけよう。
奈良時代の政治が乱れた原因として頻出！



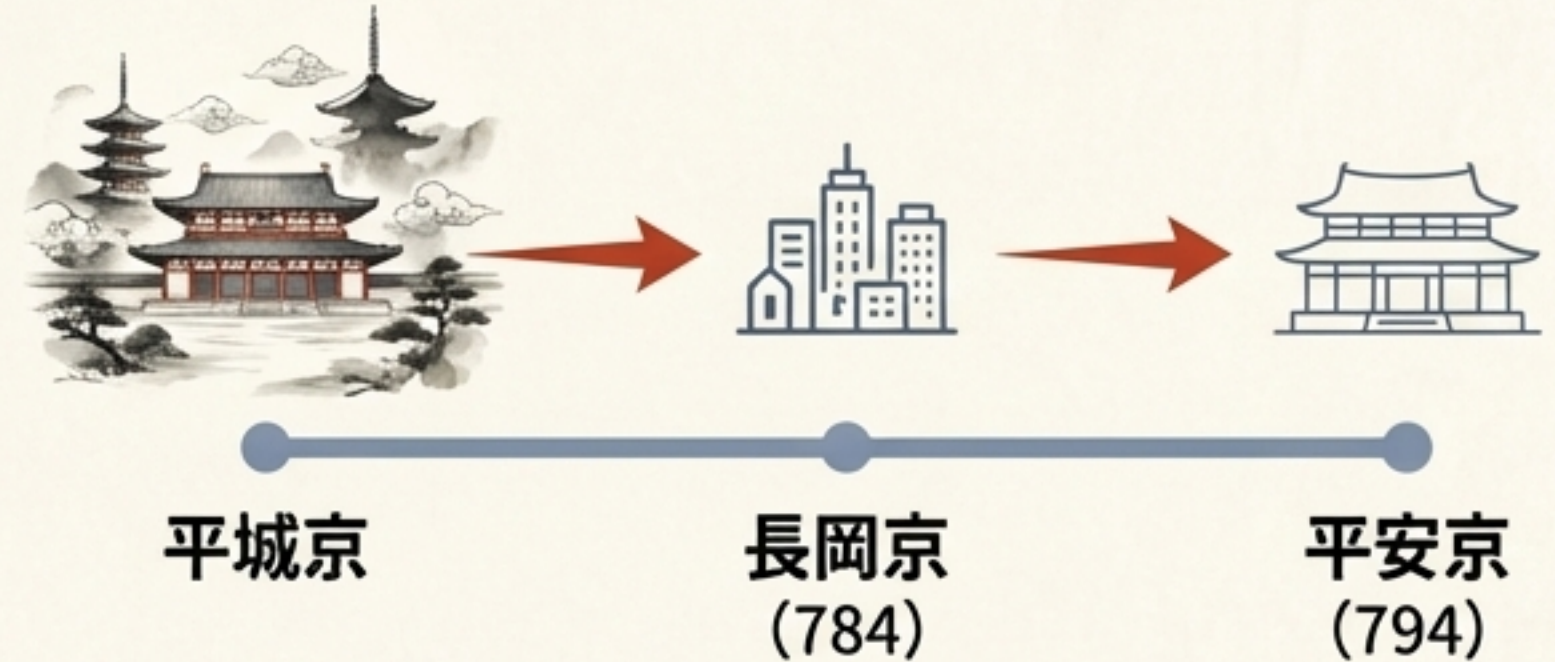
奈良を去る：桓武天皇、新たな都へ

道鏡に代表される仏教勢力の政治介入をきらった桓武天皇（かんむてんのう）は、政治を立て直すため、都を移すことを決意。

784年: 平城京から長岡京（ながおかきょう）へ遷都。

784年: 平城京から長岡京（ながおかきょう）

この平安京への遷都をもって奈良時代は終わり、新たな時代が始まる。



天平文化：国際色豊かな仏教文化の華

聖武天皇の時代を中心に栄えた文化を天平文化
(てんぴょうぶんか) という。

特徴：

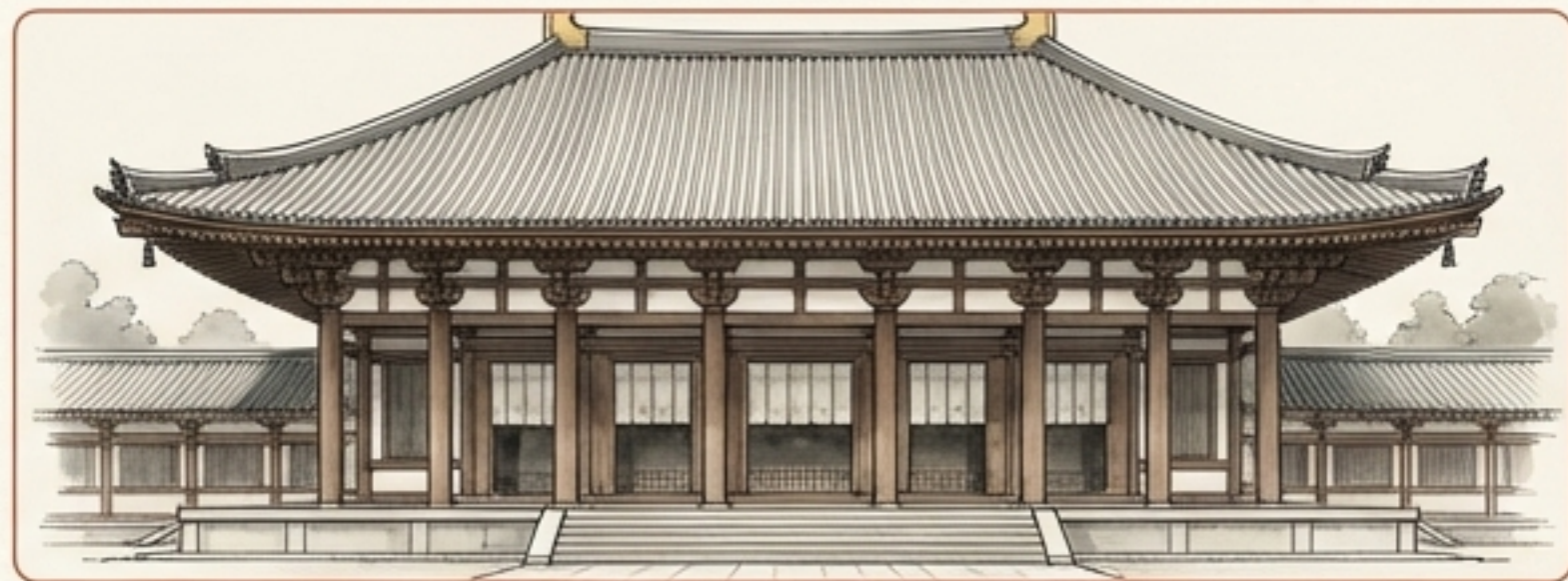
- 担い手：天皇・貴族が中心。
- 影響：遣唐使によってもたらされた唐の文化と、仏教の強い影響を受けている。
- 性格：国際的で、写實的、そして壮大なスケール感を持つ。



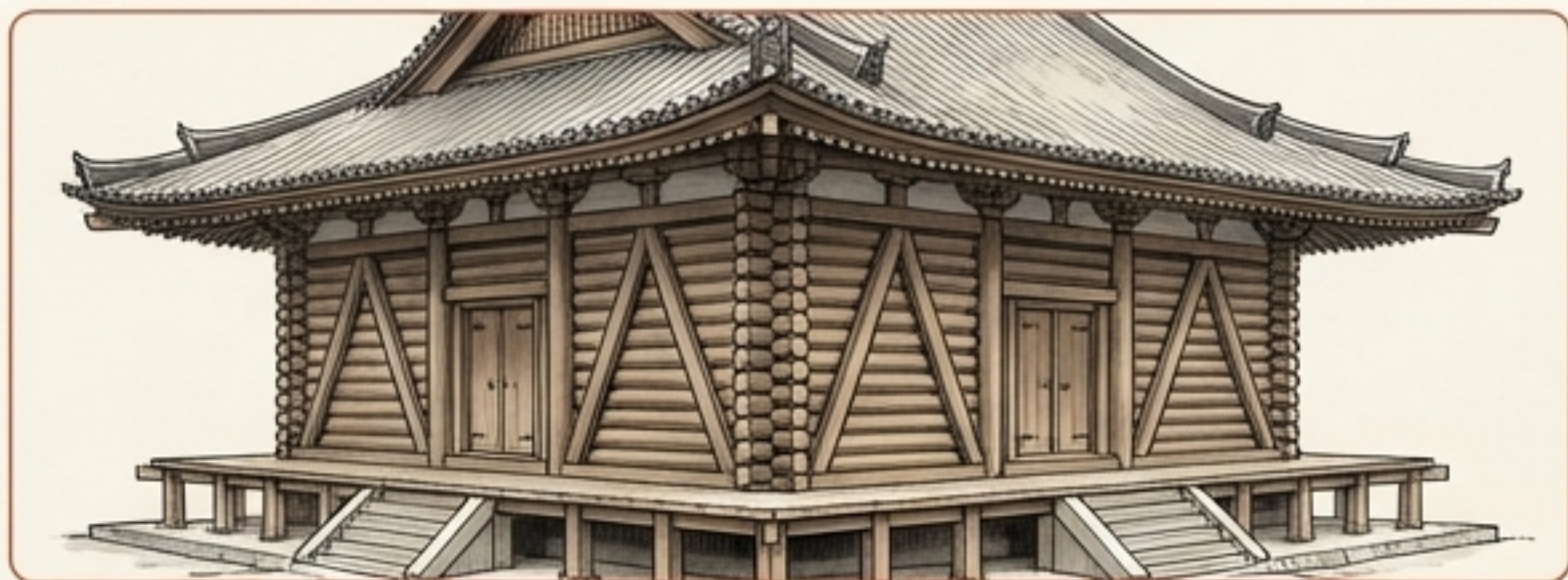
天平文化の至宝①：建築と仏像



東大寺法華堂（法華堂）：天平時代の仏像が多く安置されている。



唐招提寺金堂：鑑真が創建した寺の中心的建物。雄大で安定感のあるデザイン。



正倉院宝庫（しょうそういんほうこ）：聖武天皇ゆかりの品々が納められた宝庫。シルクロードを経て伝わった国際色豊かな宝物が多数。建築様式：**校倉造（あぜくらづくり）**も重要。



仏像（Buddhist Statues）：東大寺の大仏（盧舎那仏）や、写実的で力強い多くの仏像が作られた。

天平文化の至宝②：歴史と歌に刻まれた心



歴史書：天皇中心の国家の正当性を示すため、歴史書が編纂された。

古事記（こじき）

日本書紀（にほんしょき）



地理書：各地の産物や伝説をまとめた報告書。

風土記（ふどき）



和歌集：日本最古の和歌集。天皇から農民まで、様々な身分の人々の歌を収録。

万葉集（まんようしゅう）

入試のポイント！

山上憶良（やまのうえのおくら）の「貧窮問答歌（ひんきゅうもんどうか）」は、万葉集に収められた、当時の農民の厳しい生活を詠んだ歌。この歌は、スライド3で見た「重い税」の現実を伝える貴重な史料です。

万葉集に詠まれた想い：故郷を望む歌

遣唐使として唐に渡ったまま、日本に帰ることができなかった貴族、**阿倍仲麻呂（あべのなかまろ）**。彼が故郷の奈良を想って詠んだ歌は、万葉集の中でも特に有名です。

> 天の原 ふりさけ見れば 春日なる
> 三笠の山に 出でし月かも

（意味：大空をはるかに仰ぎ見ると、月が出ている。
あの月は、故郷の春日にある三笠の山に出ていたのと同じ月なのだなあ。）



奈良時代マスター：重要キーワード総まとめ

【人物】

元明天皇：平城京遷都、和同開珎

聖武天皇：国分寺・東大寺建立、大仏造立

行基：大仏造立に協力

鑑真：唐から来日、唐招提寺を建立

道鏡：政治に介入した僧

桓武天皇：長岡京、平安京へ遷都

山上憶良：「貧窮問答歌」

阿倍仲麻呂：遣唐使

【政治・制度】

平城京

三平国

公地公民

三世一身法（723）

租・庸・調

墾田永年私財法（743）

口分田

荘園

【文化・建物】

天平文化

東大寺（大仏）

国分寺・国分尼寺

唐招提寺

正倉院（校倉造）

古事記

日本書紀

風土記

万葉集

奈良時代が遺したもの



奈良時代の律令国家建設の試みは、公地公民の崩壊という形で挫折しました。

しかし、その危機を乗り越えようとする苦闘の中から、荘園という新しい社会システムが生まれ、国際色豊かな天平文化が花開きました。

一つの制度の「終わり」と、新しい時代の「始まり」が凝縮された、それが奈良時代です。

> この「原因→結果」の流れを掴めば、奈良時代は攻略できる！頑張ってください！